

血管新生療法は、末梢血管病による腕や手足の重症血行不全に対する新しい治療法です。

末梢血管病（閉塞性動脈硬化症・閉塞性血栓性血管炎/バージャー病・膠原病性血管炎）によって、腕や手足の血管がひどく狭くなったり詰まったりすると、流れる血液の量が少なくなります。ひどくなると、痛みや皮膚の潰瘍・壊疽を認めるようになります。薬や血管手術で血液の流れが良くならなないと、手の施しようが無くなり、痛みに苦しみ続けるどころか、腕や手足の切断を余儀なくされることもあります。

私たちの体には、血液の流れが不足している場所へと向かう新しい血管を作って、血液の供給不足を解消する仕組みが備わっています。この新しい血管作りを人工的に促す治療法が血管新生療法です。私たちの教室では、体の中にある「骨髄細胞」や「皮下脂肪細胞」の中から、この血管新生療法に必要な細胞だけを取り出し、血液の流れが悪い腕や手足に注射投与する血管新生療法を行っています。

効果が早い患者さんでは、注射投与1週間ほどで痛みが軽くなったり、潰瘍が治ってきたりします。この治療法について詳しくお知りになりたい方は、月曜日から金曜日の間、いつでも私たちの教室や久留米大学病院循環器病センター（担当：佐々木健一郎）までお問い合わせ下さい。

久留米大学医学部 内科学講座 心臓・血管内科部門  
電話：0942-317562 FAX：0942-33-6509  
電子メール：kurume\_shinzou@kurume-u.ac.jp

久留米大学病院 循環器病センター  
電話：0942-31-7628 FAX：0942-31-7706

